

聖書学研究所の働きは、4年が終了する段階で、準会員の伊藤暢人氏の修士(相当)論文の受理により、論文審査を経て、ディプロマを授与しました。牧会・教育その他の多くの奉仕を抱える中での研究活動でしたが、牧師として仕えている教会の祈りと励ましの中で修了することができました。今に至るまでの努力に主が豊かに報いてくださいますように。

なお、2024年度から2年の予定で、児玉剛先生(日本長老教会交野キリスト教会牧師)を「N. T. ライトの神学を問う」プロジェクトのためのプロジェクト研究員としてお迎えしました。児玉先生と所長、所員の三人で、NPPの中でも特にN. T. ライトの福音理解に対しての応答という形で共同研究を行い、世に発信していきたいと思っています。

引き続き、聖書学研究所の働きを覚えてご支援とご加禱をよろしくお願いいたします。

所長 津村俊夫

記

1. 修士(相当)論文：

伊藤暢人著 「ヘブル詩の並行法における動詞 *yiqtol* 形と *qatal* 形の関係 — 詩篇第1巻における用例研究—」 2024年3月 (Nobuhito Ito, *The Relationship between Yiqtol and Qatal in Hebrew Poetic Parallelism: A Study of the Examples in Book I of the Psalms*, March 2024)

聖書学研究所主催・公開研究会発表(2024年4月11日)

2. 月例研究会 原則として月の第4木曜日午後2時半—5時半

昨年度は、いよいよ論文の一部を書き始める段階に入った会員・準会員との個人的な指導のために時間を使い、全体の会議は、隔月に行うことにしました。

3. 会員の研究テーマ

会員：田村 将 「癒しと救い：メソポタミアとイスラエルにおける『神の手』」

会員：星野仁子 「マラキによる説得—構成と論理的展開と修辞」

準会員：伊藤暢人 「並行法における *yiqtol* - *qatal* の用法」

4. 所員の活動報告

津村俊夫

長期計画：

1. *Creation, Conflict and Destruction* (third and enlarged edition)

2. 『古代カナンにエル祭儀があったか：ウガリトの宗教と言語に関する諸論』

文』(日本語版) --作成中--

研究報告：

1. *Was There a Cult of El in Ancient Canaan? Papers on Ugaritic Religion and Language* (Orientalische Religionen in der Antike 55) Tübingen: Mohr Siebeck 2024.
2. 「新約聖書における詩的並行法(その一)」 *Exegetica* 32 (2023), 1-24.
3. “IL as the Collective Godhead *ʾIlū* in LB Ugarit,” *Journal for the American Oriental Society* 143 (2023), 365-83.
4. “Conversational Aposiopesis in the MT Samuel: Textual Omission or Conversational Ellipsis?” *Zeitschrift für die Alttestamentliche Wissenschaft* 135 (2023), 86-96.

三浦讓

長期計画：

1. 「新約聖書におけるダビデ」
2. 「New Perspective on Paul の検討」
3. 「LXX と新約における Verbal Hendiadys (二詞一意) の用法」

研究報告

1. 「New Perspective on Paul の検討」
N. T. ライトの義認論についてまとめたものを北海道聖書学院研修会で発表
2. 「LXX と新約における Verbal Hendiadys (二詞一意) の用法」
𐤀𐤍𐤐 のギリシア語の訳語における用法の検討中

児玉 剛 (プロジェクト研究員)

聖書学研究所主催・公開研究会発表 (2024 年 4 月 11 日)

「N. T. ライトの聖書観：polygamy 理解をその一例として」

5. オンライン・セミナー

ウガリト語研究会 (月一度、第一火曜日、午後 8 時-10 時半)

ヘブル語聖書研究会 (月一度、第三火曜日、午後 8 時-10 時半)